

事業番号	3	事業名	留学生短期受入れと日本人学生の海外派遣を一体とした交流事業
------	---	-----	-------------------------------

評価者のコメント（コメントシートに記載されたコメント）

- ショートビジットはねらいを明確化すべき。
- ショートビジット、ショートステイについて、事業の成果をしっかりと検証して事業のあり方を検討していくべき。
- 長期派遣への動機付けに効果がある方策に向っていただきたい。
- ショートビジット、ショートステイは広く多様な学生に異文化に触れさせるものであり、非常に効果が期待できる。議論にあったような学生の私費で行かせるべきと言うのは理想論であり、現実の政策としては取れない立場にある。
- 大学教育の質保証（文科省資料でも入口はシラバスの厳格化、授業科目のナンバリング等であるとされている）にリンクされた事業（大学に対して緊張感を持った教育改善に取り組むインセンティブをビルトインする）として再構築すべき。
- 長期分を含め、制度の拡充を年々図るべきである。
- 経済的に困窮度の高い学生への給付などターゲットを絞るべき。
- グローバル人材として多様な分野の学生を派遣すべき。その点で、経済、工学などの学生にターゲットを絞るなどの方策が必要ではないか。
- 短期留学を単独で事業とするのは、限界が明確になっている。
- ショートビジットはプログラムの要件も甘く、必要性も認められない。即時廃止すべきと考える。むしろ、その予算を活用して優秀でやる気のある人材をサポートすべき。
- 全体の制度設計をゼロベースで見直し。
- 一度、大学の甘えを正して短期留学に対しても①TOEFL基準での受験資格、②留学先での単位取得を条件とするべき。それにより、大学教育に東大の秋入学と合わせて国際的ショックを与えるべき。
- 遊学は「自分で働いて行きなさい」でよいと思う。

評価結果

抜本的改善

廃止	3名
抜本的改善	0名（実施主体0名、事業規模0名、事業内容0名、予算執行0名、その他0名）
一部改善	3名（実施主体0名、事業規模1名、事業内容3名、予算執行0名、その他0名）
現状通り	0名

（注）抜本的改善、一部改善の（ ）書きは改善内容を示し、複数選択を可能としている。

とりまとめコメント

本事業については、「廃止」3名、「一部改善」3名との結果を踏まえ、「抜本的改善」という結論とし、以下の2点のコメントを付すこととする。

- ① 高等教育改革全体の方向を踏まえて、それぞれの事業の目的を明確にしながら対象者の選考方法や単位取得などのプログラム内容等、教育の質を向上させるために、より効果的な事業の在り方を検討すべき。
- ② 特に、3ヶ月未満の短期受入・派遣事業については、各大学等がこれまで自主的に実施してきた学生交流事業との関係について整理するとともに経済的理由で参加が困難である学生等に支援対象を重点化するなどしっかりと見直しをすべき。